

## 京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3年計画の3年度目)

### 1. 研究課題

(和文) 元代雑劇の研究

(英文) A study on Zaju drama in Yuan dynasty

### 2. 研究代表者

(氏名) 金文京

### 3. 研究期間

平成 23年 4月 から 平成 26年3月 まで

### 4. 研究目的 (400字程度)

中国元代に流行した雑劇(いわゆる元曲)は、中国におけるもっとも早い本格的な演劇であり、また脚本が現存するもっとも早い戯曲文学でもある。ただしその大部分は、次の明代になって刊行または書写されたものであり、後代の改変を多くこうむっている。元代当時のものと姿を伝えるのは、『元刊雑劇三十種』に収める三十の作品があるのみであるが、このテキストは誤字脱字が多いうえ、台詞がほとんどなく、歌詞のみを記しているため、難読をもって知られている。そのためこれまで中国で三種類の校注本が出版されているが、不明の箇所はなお多い。本研究班はこの点に鑑み、『元刊雑劇三十種』を精読することによって、綿密な校注および日本語訳を作成することを目的とする。

### 5. 本年度の研究実施状況 (400字程度)

本年度も昨年度に引き続き、『元刊雑劇三十種』の会読と訳注作成を行った。会読箇所と担当者は以下のとおりである。本年度が最終年度であり、成果報告として訳注を刊行する予定である。

二〇一三年

一月十二日(土) 「范張鶏黍」楔子・一折前半 担当:赤松紀彦

二月二三日(土) 「范張鶏黍」一折後半 担当:金文京

四月二七日(土) 「范張鶏黍」二折前半、担当:高橋繁樹

五月十一日(土) 「范張鶏黍」二折後半 担当:小松謙

六月二二日(土) 「范張鶏黍」三折前半 担当:佐藤晴彦

七月二七日(土) 「范張鶏黍」三折後半 担当:高橋文治

九月十四日(土) 「范張鶏黍」四折前半 担当:松浦恒雄

十月二六日(土) 「范張鶏黍」四折後半 担当:竹内誠

十一月三日(日) 「看銭奴」雑劇 第一折前半 担当:土屋育子

十二月二一日(土) 「看銭奴」雑劇 第一折後半 担当:赤松紀彦

二〇一四年

一月一八日(土) 「看銭奴」雑劇 第二折前半 担当:金文京

二月二二日(土) 「看銭奴」雑劇 第二折後半 担当:小松謙

6. 研究成果の概要（400字程度）

「范張鷄黍」雑劇についての訳注を作成し、出版公開をめざし準備を進めた。また公開講演会を実施した（下記参照）。

7. 共同研究会に関連した公表実績（出版、公開シンポジウム、学会分科会、電子媒体など）  
 九月二十六日（木）から四回にわけ、人文研アカデミーにおいて公開講座「中国古典演劇の世界」を開催した。講演者と題目は下記のとおりである。

- 九月二十六日（木） 赤松紀彦「蜀山人が見た中国演劇」
- 十月三日（木） 小松 謙「日本演劇と中国演劇」
- 十月十日（木） 松浦恒雄「20世紀中国演劇」
- 十月十七日（木） 金 文京「中国古典劇の世界」

8. 本年度の共同利用・共同研究の参加状況

区 分	機関数	受入人数		延べ人数			
		外国人	大学院生	外国人	大学院生		
学内（法人内）	2	3	1	0	30	10	0
国立大学	2	2	0	0	20	0	0
公立大学	3	3	0	0	28	0	0
私立大学	2	2	0	0	20	0	0
大学共同利用機関法人	0						
独立行政法人等公的研究機関	0						
民間機関	0						
外国機関	0						
その他	0						
計	9	10	1	0	98	10	0

研究参加者の所属機関数、参加人数、延べ人数を区分に応じて記入して下さい。

※「学内」の所属機関数は「学部数」等を記入して下さい。

※参加人数及び延べ人数の算出方法は、以下の例に基づき算出して下さい。

（例）・1つの共同利用・共同研究課題で2人を共同研究員として3日間受け入れた（参加した場合）：参加人数2人、延べ人数6人

9. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

（参加研究者がファーストオーサーであるものを対象）

論文数	3	
うち国際学術誌に掲載された論文数	( )	( )

※下段の（ ）内には、拠点外の研究者による成果（内数）を記載。

（注）分野の特性を踏まえて、参加研究者がファーストオーサーである場合の他に、コレスポンディングオーサーである場合や指導した大学院生がファーストオーサーになっている場合など、論文における重要な役割を果たした実績を示す必要がある場合は、その役割を明示の上で論文数を記

載。

役割			
論文数			
	うち国際学術誌に掲載された論文数	( )	( )

※下段の ( ) 内には、拠点外の研究者による成果 (内数) を記載。

※ 高いインパクトファクターを持つ雑誌等に掲載された場合、その雑誌名、掲載論文数、そのうち主なものを以下に記載。

※ 拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す。

掲載雑誌名	掲載論文数	主なもの	
		論文名	発表者名
図書 (岩波書店) 2013-4	1	東アジアの西廂記	金文京

(注) インパクトファクターを用いることが適当ではない分野等の場合は、以下に適切な指標とその理由を記載上で、掲載雑誌名等を記載。

拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す。

インパクトファクター以外の指標とその理由		主なもの	
掲載雑誌名	掲載論文数	論文名	発表者名